

1 単元名 いろいろな「環境を守るくふう」について調べよう 「ウミガメのはまを守る」**2 単元の目標**

- 絶滅危惧動物の保護について進んで調べ、自分なりの考えをもち、その考えを文章にまとめようとする。
(関心・意欲・態度)
- 調べたことをもとに、まとまりを意識しながら、文章を書くことができる。
(書くこと)
- 何がどのように書かれているかに注意して、叙述を正確に読み取ることができる。
(読むこと)
- 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うことができる。
(言語についての知識・理解・技能)

3 単元について**(1) 教材観**

本単元は、新学習指導要領第3学年及び第4学年の内容「C読むこと」(1)イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」及び「B書くこと」(1)ウ「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」を主なねらいとしている。

小学生も参加しているウミガメの保護活動という題材は、ウミガメの生態への関心も相まって、興味深く読むことができる。本教材は、「話題提示」、「説明」、「まとめ」の三つのまとまりで構成されている。また、「説明」は、保護監視員の保護活動について述べた前半と、小学生の保護活動について述べた後半に分かれる。文章全体の構成が分かりやすく、また、事柄のまとまりごとに要点がとらえやすく書かれているので、児童が環境を守る新聞を作る時に、書き表し方を参考にしやすい文章だといえる。また、児童が本文学習後に調べる活動へと発展していく時に、どんな視点をもって情報収集していくべきかを示唆してくれている。本単元では、教材文で文章の構成の仕方を学習した後、個々が絶滅危惧動物の保護について調べ、新聞にまとめていく学習をしていきたい。

(2) 児童観

これまでの学習から、本単元についての児童の実態は次のようである。(平成21年9月 第4学年＊人)

- | | |
|-------------------------|----|
| ・ 問いの文を見つけることができる。 | *人 |
| ・ 問いの答えを見つけることができる。 | *人 |
| ・ 文脈に即した接続詞を見つけることができる。 | *人 |
| ・ 段落相互の関係が分かる。 | *人 |

本学級の児童は学習に対して意欲的に取り組む児童が多い。1学期に学習した説明文「ヤドカリとイソギンチャク」では、段落と段落の結び付きを考えて、書かれた内容を正しく読み取ることを学習した。「説明文 読みの観点」を活用し、文末の表現に着目して問い合わせを見つけたり、段落ごとの要点を整理して、段落相互の関係を読み取ったりする活動をしてきた。今回の実態調査の結果では、問い合わせを見つけることはできているが、答えの文を正確に見つけることは難しかった。また、文脈に即した接続詞を見つけることも難しかった。本単元では、指示語、接続語、文末表現に気を付けて、文章を正確に読み進められるようにしたい。

(3) 指導観

4年生も後半になると、自分の身の回りのことから次第に視野が広がってくる。そこで本単元では、日本や世界の絶滅危惧動物について調べ、だれがどのようにして保護しているのか、実態はどうなっているかを新聞にまとめて伝え合う学習活動を設定した。新聞作りへの興味関心は高いので、この教材文を読むときにも今後の学習を念頭において、より主体的に読んでいくと考えられる。「ウミガメのはまを守る」の教材文で書き方を学んだ後、インターネットや図書資料で情報収集を行う。その際、教材文で学習した視点が役立つと思われる。児童は、自分の興味をもった動物を調べることでより意欲的に取り組むことができるだろう。

また、本教材は、ウミガメを保護する活動を主に述べているにもかかわらず「はまを守る」という題名が付けられている。これは、題名に込められた筆者の思いをとらえる読み方を身に付けることに適した教材であると考える。そこで、指示語、接続語、文末表現、題名につながる言葉に着目して、筆者の思いをとらえさせたい。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
環境問題について進んで調べ、自分なりの考えをもち、その考えを文章にまとめるようとしている。	調べたことをもとに、事柄のまとめを意識しながら、読み手に分かりやすい文章を書いている。	何がどのように書かれているかに注意し、中心となる語や文をとらえて、正確に読み取っている。	文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使っている。

5 指導と評価の計画（15時間扱い 本時8時）

段階	主な学習活動	主な評価
第一次 つかむ	1 「ウミガメのはまを守る」を読み、初発の感想をまとめる。 2 「てびき」を読み、学習の見通しをもつ。	・教材文に関心をもち、初発の感想をまとめている。 (ノート・観察) ・学習の見通しがもてている。 (ノート・観察)
第二次 ふかめる	3 全文を大きく三つのまとめに分け、四つの意味段落ごとに小見出しを付ける。 4 ウミガメの保護に乗り出す経緯を読み取る。	・まとまりごとの内容を読み取り、内容にふさわしい小見出しを付けている。 (ノート・観察) ・ウミガメのはまを守るようになったわけを読み取っている。 (ノート、発言)
	5 保護監視員の活動を読み取る。 6 小学生の保護活動を読み取る。 7 御前崎町の人々の願いを読み取る。	・保護監視員の活動を、中心となる語や文をとらえながら読み取っている。 (ノート・発言) ・小学生の保護活動を、中心となる語や文をとらえながら読み取っている。 (ノート・発言) ・御前崎町の人々の願いを、中心となる語や文をとらえながら読み取っている。 (ノート・発言)
	8 「ウミガメのはまを守る」という題名をつけた筆者の思いを読み取る。 (本時)	・「ウミガメのはまを守る」という題名をつけた筆者の思いを読み取っている。 (ワークシート・発言)
第三次 生かす	9,10,11 自分が調べたい絶滅危惧動物を選び、情報を収集する。 12,13,14 調べたことをもとに新聞にまとめる。 15 できあがった新聞をお互いに読み合って、学習のまとめをする。	・自分の調べたいテーマを見つけ、情報を収集している。 (ノート、観察) ・割り付けや見出しを考えながら、新聞作りをしている。 (新聞、観察) ・新聞を読み合い、よい点に気付いて伝え合っている。 (発言、観察)

6 本時の学習

(1) 目標

「ウミガメのはまを守る」という題名をつけた筆者の思いを読み取ることができる。

(2) 研究主題に迫るための手立て

・文末表現、題名につながる言葉に着目して、題名に「ウミガメのはまを守る」とつけた筆者の思いをとらえ、筆者の表現の工夫を読み取ることができるようとする。

(3) 展開

学習活動及び内容	指導上の留意点(○評価)
<p>1 本時の学習について話し合い、本時の課題をつかむ。</p> <p>筆者はなぜ「ウミガメのはまを守る」という題名をつけたのか考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none">前時までの学習の流れを確認し、教材文全体の概要をとらえ、本時の学習を確認する。教材文は主にウミガメの保護活動について書かれているが、筆者はなぜ「ウミガメのはまを守る」という題名をつけたのかについて本時は考えさせていく。題名「ウミガメのはまを守る」と「ウミガメを守る」とを対比させて考えさせる。題名につながる言葉、文末表現から考えていくことを確認する。「ウミガメのはまを守る」という題名になる根拠となる部分を見つけ、サイドラインを引かせる。「ウミガメのはまを守る」という題名になる理由を根拠と結び付けながら、自分の考えをワークシートに書かせる。
<p>2 学習の進め方を確認し、本時の課題を解決するための見通しをもつ。</p> <p>3 題名につながる言葉、文末表現にサイドラインを引いたり、つなぎ合わせたりしながら、自分の考えをワークシートに書き込む。</p> <p>[題名につながる言葉]</p> <ul style="list-style-type: none">静岡県御前崎町のすなはまには、毎年5月から…。それ以来、すなはまは年を追ってせまくなりました。すなはまを走り回る自動車に、たまごが…。ウミガメは、自分が生まれたすなはまに…。御前崎町の人々は、このすなはまで…。 <p>[文末表現]</p> <ul style="list-style-type: none">そのようなことが起きないように、見回るのです。ウミガメがたまごを産みやすいように、海岸のごみや流木を取りのぞくのです。	<p>○筆者はなぜ「ウミガメのはまを守る」という題名をつけたのか、自分の考えをワークシートに書くことができる。(ワークシート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none">ワークシートに書き出せない児童には、サイドラインを引いたところを使って自分の考えを書くようにさせる。早く書けた児童は互いに読み合わせる。
<p>4 課題について話し合う。</p> <p>(1) グループで話し合う。</p> <p>(2) 全体で話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none">自分の考えを叙述に即しながら発表させ、積極的に話合いに参加させる。友達の考えを聞きながら自分の考えに付け足したり、修正したりさせる。「ウミガメのはまを守る」という題名がふさわしいかという点について話し合い、読みを広げたり深めたりさせる。友達の考えとの共通点や相違点に着目して、自分の読みを見直すよう助言する。浜を守るということが、ウミガメを保護することにつながることに気付かせる。本時の学習について、観点をもとに自己評価できるようにする。
<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 本時の学習内容を振り返り、次時の学習内容を知る。</p>	